

平安宮跡（清暑堂）発掘調査現地説明会資料

2007年9月22日

所在地 京都市中京区聚楽廻西町 80 番地
調査期間 2007年9月3日～9月28日（予定）
調査面積 約 160 m²
調査期間 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 (<http://kyoto-arc.or.jp/>)

はじめに

本調査は、平安宮豊楽院の清暑堂および豊楽殿北廊の一角に当たります。豊楽院は豊楽殿を正殿とし、国家の饗宴の場として平安時代初めに造営されました。清暑堂は、天皇が出御の際に控えの間として使用され、豊楽殿とは北廊（渡り廊下）で繋がっていました。また、清暑堂では独自の儀式（清暑堂神楽）も行われていたとされています。昭和 63 年に行われた調査区南側の発掘調査では、豊楽殿の基壇や礎石据え付け穴、北廊の基壇が確認されています。この調査で豊楽殿の東西中央に階段があり、後に壊されて北廊が造られていたことがわかりました。

今回の調査では、清暑堂の南縁と西縁および規模の確認、豊楽殿北廊基壇の確認、清暑堂と豊楽殿北廊の関係などを目的として調査を行いました。

調査成果

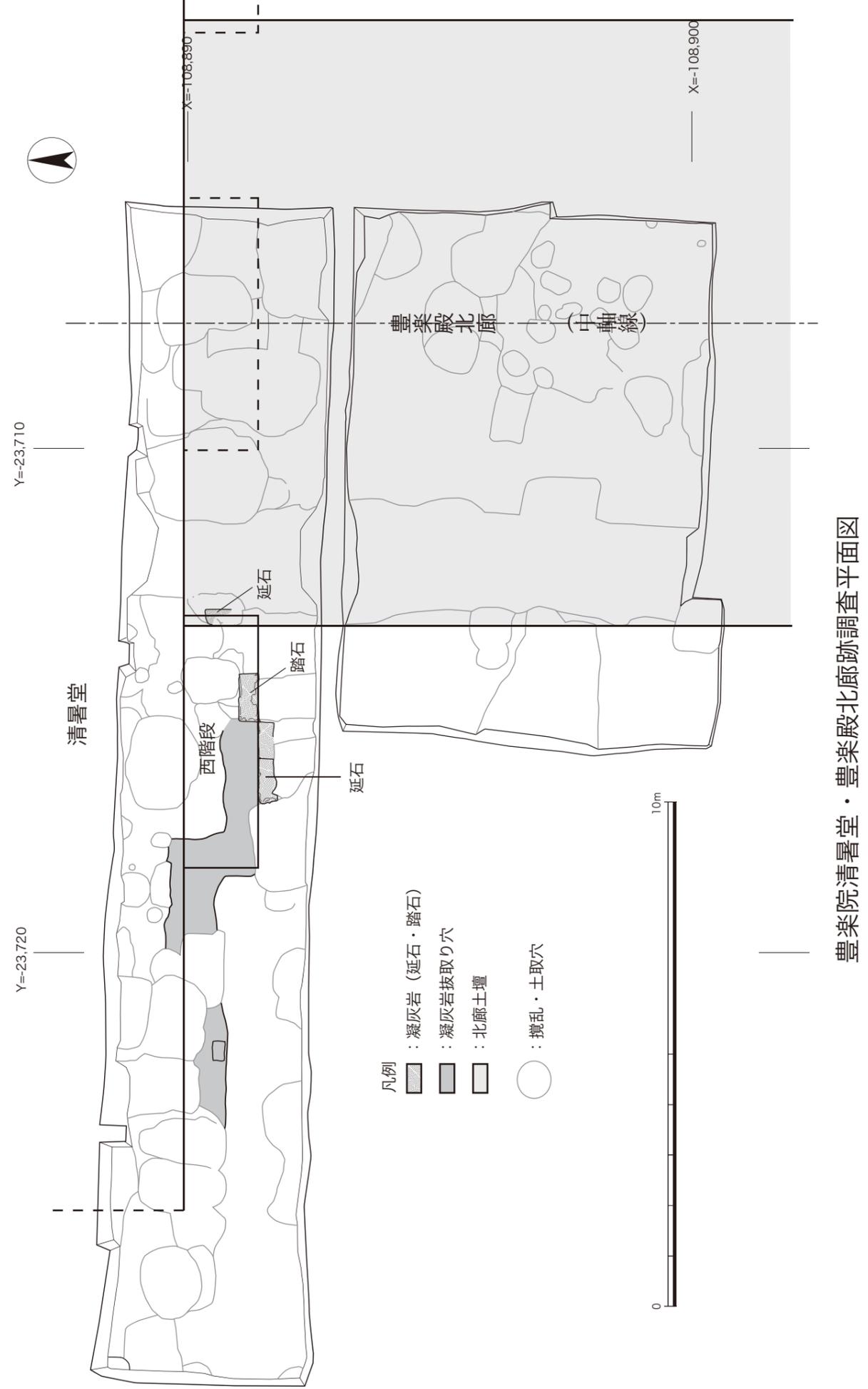
清暑堂に関するものとしては、基壇を化粧した凝灰岩を抜き取った溝、階段と考えられる張り出し部分（幅約 5.2m・張り出し約 1.5m）を確認し、階段部分は、基礎の延石と一段目の踏石（凝灰石）が残っていました。踏石は一石のみですが、延石は 3 石以上（2.5m 以上）残っています。凝灰岩の大きさは延石が長さ 92 cm 以上、幅 37 cm、高さ 20 cm、踏石が長さ 95 cm、幅 40 cm、高さ 31 cm です。

豊楽殿北廊に関するものとしては、基壇の盛土、屋根から落ちる雨水を受ける為の磚敷きを確認しました。また、豊楽殿北廊は清暑堂の階段を埋めて造られていることがわかりました。

まとめ

清暑堂 基壇の南端を確定することができました。また、清暑堂の規模が東西約 33m 以上であることがわかりました。見つかった階段は南面西側の階段と推定されることから、清暑堂の南面には 3 つの階段が取り付けいていたこととなります。階段の幅は約 5.2m で豊楽殿の階段と同じであることもわかりました。

豊楽殿北廊 豊楽殿北廊は、清暑堂が建てられた後に付け足されたことがわかりました。また、豊楽殿北廊の規模が長さ約 30m、幅約 12m であることもわかりました。



豊楽院北部遺構平面図



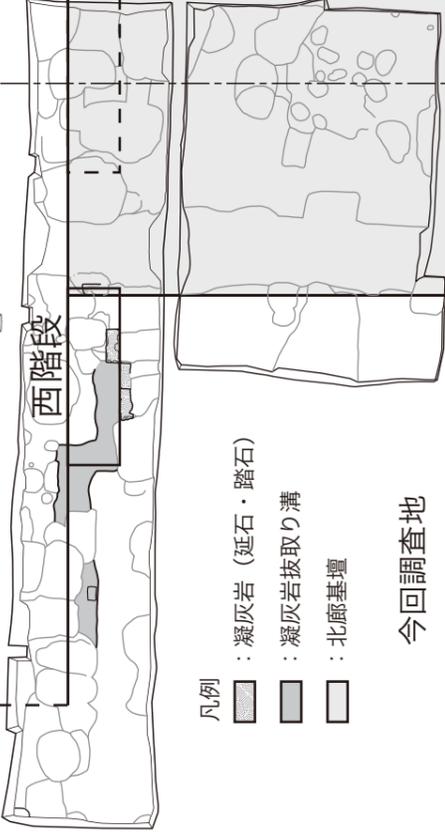
丸太町通

昭和63年度調査地2



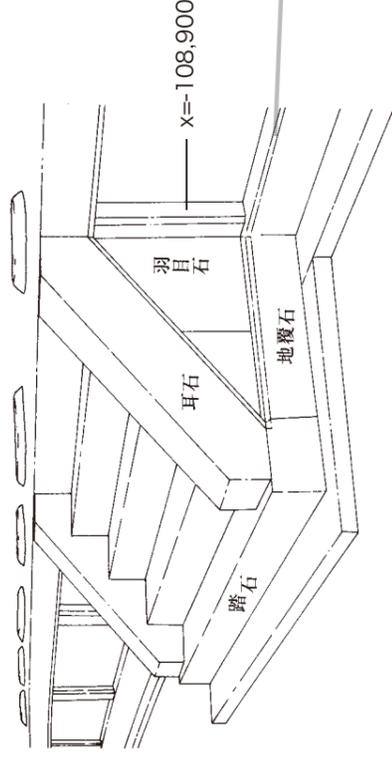
清暑堂基壇

西階段



- 凡例
- : 凝灰岩 (延石・踏石)
 - : 凝灰岩抜き溝
 - : 北廊基壇

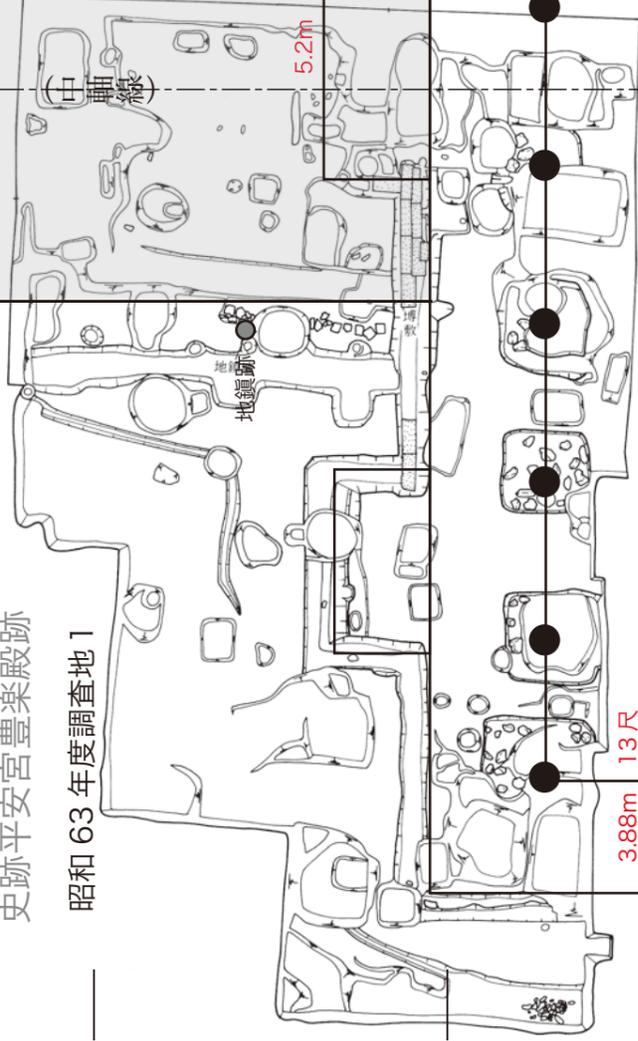
今回調査地



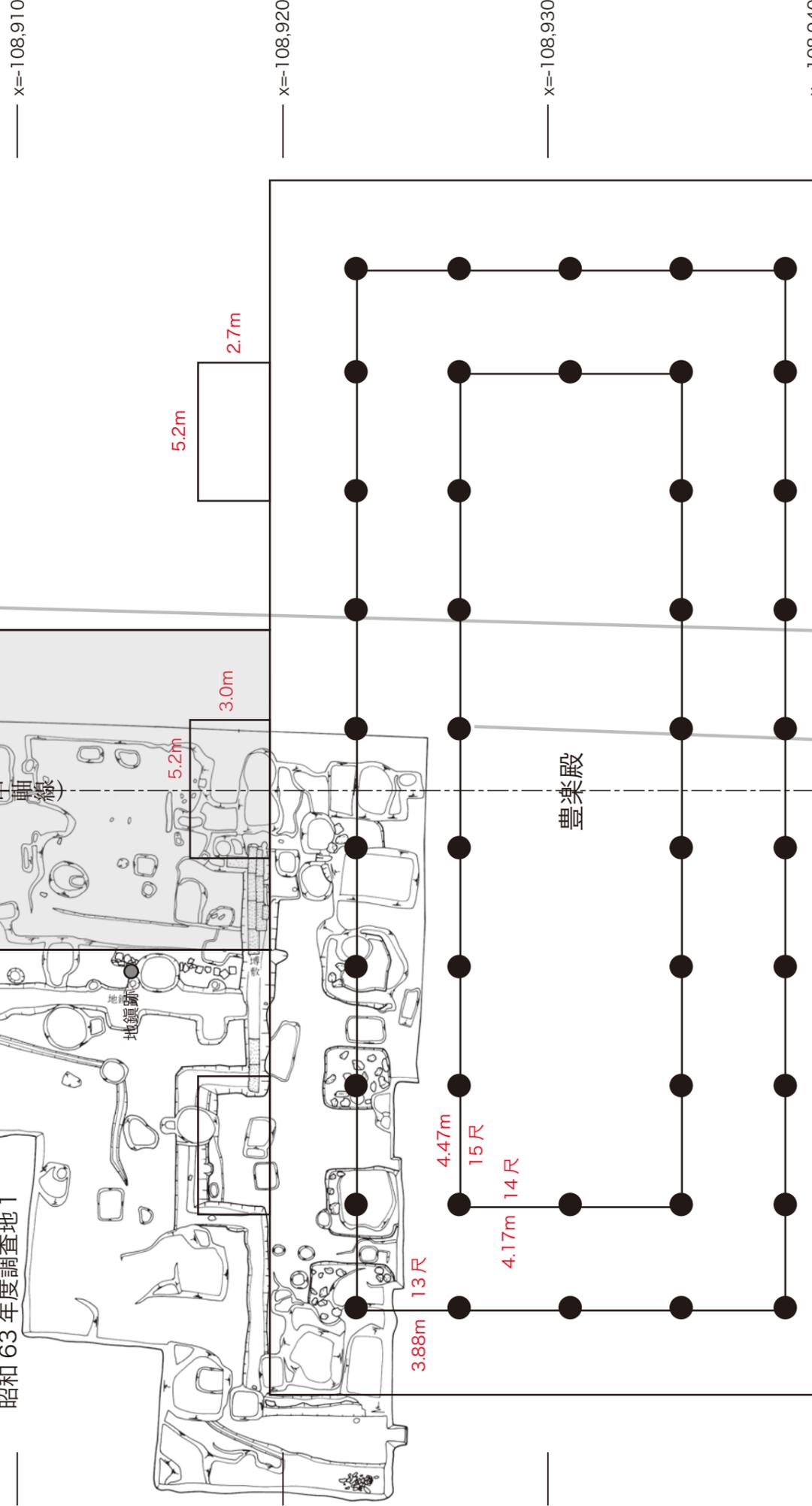
階段模式図

史跡平安宮豊楽殿跡

昭和63年度調査地1



x=-108,910
x=-108,920
x=-108,930
x=-108,940



Y=-23,730

Y=-23,720

Y=-23,710

Y=-23,700

Y=-23,690